

## 居宅生活支援部会の取組

### 令和3年度の主な取組内容と結果

#### <取組内容>

① 強度行動障がい児者の支援について

居宅生活支援部会WGにおいて「強度行動障がい支援者学習・交流会」を開催し、受入に関する支援スタッフのスキルアップを図るとともに、支援者の輪を広げ、横のつながりを形成する。

② 共助に向けた地域のつながり強化について

地域で身近な相談や援助を行う民生委員、児童委員の役割を理解するとともに、障がい理解が進む場を設けることで、居宅生活における不安や悩みの軽減を図る。

#### <結果および成果>

① 強度行動障がい児者の支援について

【第1回開催】7月1日(木)オンラインにて開催した。

【第2回開催】3月10日(木)開催予定。新型コロナウイルス感染状況によりオンラインでの開催も含め検討中。

② 共助に向けた地域のつながり強化について

地域の身近な支援者である民生児童委員の方の障がい理解促進の為、福井市避難支援プラン作成とその名簿登録の周知方法の協議や、地区相談なんとうが行った民生児童委員への障がい者福祉研修の検討を行った。

## こども部会の取組

### 令和3年度の主な取組

#### < 取組内容 >

##### 1. 地域課題の協議

部会員や事務局、運営会議を通じて提起された地域課題について、随時、協議・対応する。

##### 2. 前年度からの継続課題への対応

令和2年度に取り組んできた下記の地域課題について、研修会等を開催する。

- ・児童虐待防止講座について
- ・聴覚障がい児支援について
- ・教育と福祉の連携について

#### < 結果および成果 >

- 1 年長児の就学に向けた放デイ利用申込で、必要な人が利用できる環境が必要(新規)⇒(次年度へ課題継続)
  - ・臨時部会を開催し、協議・検討を行った。
- 2-1 福祉サービス事業所の児童虐待防止に関する啓発が必要(継続)⇒(今年度で終結)
  - ・令和3年度以降、児童発達支援センターの機能強化事業として、障害児通所支援事業所向けの児童虐待防止に関する研修を実施する。
- 2-2 聴覚障がい児への支援について知ることが必要(継続)⇒(今年度で終結)
  - ・令和4年2月22日(火)、障害児通所支援事業所向けに「聴覚障がい児を受け入れるための研修」をオンラインで開催する。
- 2-3 教育と福祉の相互理解が必要(継続)⇒(次年度へ課題継続)
  - ・県特別支援教育センターの主催する「教育と福祉との連携・協働検討会議」及び市学校教育課が設置する「福井市特別支援教育専門委員会」に障がい福祉課として参加した。
  - ・福井市特別支援専門委員会の地区別協議会において、市内の特別支援学校や小中学校の特別支援コーディネーターと相談支援事業所等がグループワーク等により課題の共有や検討を行った。
- 2-4 支援学校卒業後も安心して生活できる環境を作るための支援体制を在学生のうちに整えておくことが必要(継続)⇒(次年度へ課題継続)
  - ・令和3年11月13日(土)に「輝け！こどもの笑顔！！特別支援学校と放課後等デイサービスの連携」と題して、特別支援学校及び放課後等デイサービス事業所を対象に研修を開催した。
- 2-5 「ことばの教室」の役割がかわったことによる児童の支援体制の検討が必要(継続)⇒(今年度で課題終結)
  - ・子どもに関する発達上の気付きや養育上の気付きなどの相談を広く受け付けている「子ども家庭センター相談室」の顔つなぎをした。
- 2-6 特性に応じた支援の継続が必要(継続)⇒(今年度で課題終結)
  - ・こども部会からの意見等を県障がい福祉課へ課題提起する。

※2-5、2-6については、健康管理センター、子育て支援課、子ども福祉課が定期的で開催している「妊娠期から子育て期の継続的な支援に関する庁内連絡会」に障がい福祉課も参加することとなった。

## 就労支援部会の取組

令和3年度の主な取組内容と成果

### < 取組内容 >

- ① 就労支援の課題協議とネットワーク作り
  - ・就労支援事業所を中心とした、個別ワーキンググループを開催する。
  - ・相談支援事業者連絡会と情報交換会を開催する。
  - ・特別支援学校の現場実習日程年間計画を集約する。
- ② 障がい者雇用の普及啓発と就労支援事業所の周知
  - ・「福井市障がい者就労支援ガイドブック」の様式改定を含めた更新を行う。
  - ・ふくい障害者ワークフェアでのガイドブック等の展示。

### < 結果および成果 >

- ① 各サービス(移行・A型・B型)毎にネットワークミーティングを開催。各サービスにおける現状を共有し、雇用情勢や支援上の課題について協議を行い、事業所間のネットワーク構築を図った。

相談支援事業者連絡会が主催のワークショップに参加。相談支援事業所と就労支援事業所で意見交換を行った。利用段階に応じたお互いの役割について課題を共有し、円滑なサービス利用・相談援助のための情報共有の重要性を再確認した。

特別支援学校の現場実習日程年間計画を集約。就労支援事業所に配布し、学校と事業所間のスムーズな連絡調整に寄与した。
- ② 就労支援ガイドブックの様式を利用者目線に立ったものに改定し、更新を行った。また、ふくい障害者ワークフェアでの展示・配布等を通し、障がい者の就労について普及啓発を行った。各就労支援事業所の活動内容の理解に繋がった。

## 地域移行・地域定着部会の取組

### 令和3年度の主な取組内容

平成28年度当部会であげられた以下の5つの検討課題の中から、平成29年度は①、平成30年度は①⑤、令和元年・2年度は②⑤に取り組んできた。令和3年度は③障がい者の地域移行に向けての地域住民への理解促進、及び④障がい者の地域移行に向けた意識の向上、社会貢献の機会の増進について、部会員を4グループに分けそれぞれでグループワークに取り組んだ。

- ① 病院や施設からの地域移行の際の共通の基準作り  
→共通評価表の作成
- ② 地域で自立生活できるようなグループホーム等での支援等のあり方  
→ワーキンググループから報告
- ③ 障がい者の地域移行に向けての地域住民への理解促進
- ④ 障がい者の地域移行に向けた意識の向上、社会貢献の機会の増進
- ⑤ 障がい者の地域移行に向けたアパート等の住居の確保  
→居住地マップの作成

### < 取組内容 >

#### 1、アンケート作成・実施・回収分析グループ

いまだ地域移行することができていない潜在的対象者の特徴を把握することを目的に、アンケートを作成、実施、分析する。

#### 2、研修開催グループ

「地域移行は無理」と思って退院退所させることを躊躇している支援者への意識を変えることを目的に、研修の実施方法や資料作成等を行う。

本人の情報をどこまでオープンにできるか、事例本人の了承を得ることについて検討中。

#### 3、ピアサポートグループ

「地域移行は無理」と思っていて退院退所できていない障がい者の意識を変えることを目的に、地域移行希望者や家族に対してピアサポートを検討する。

ピアサポーター候補者の決定、説明資料を作成中。

#### 4、地域の理解促進グループ

地域住民が主体となり、誰もが当たり前に住める地域社会を再生していくことを目的に、相談支援専門員、民生委員、公民館等に出張講座等を検討する。

既に地域移行した方やどのような症状の方が地域移行を希望しているか事例紹介を加えた資料の作成に向けた調査検討中。

### < 結果および成果 >

アンケートを作成、12月中に配布回収し、第4回部会にて報告した。

## 相談支援事業者連絡会の取組

### 令和3年度の主な取組内容と結果

#### <取組内容>

1. 自立支援協議会各専門部会との連携強化  
専門部会ごとに4つのランチグループにわかれ、各専門部会での協議内容について共有、意見交換するとともに、地域課題の提起等を行う。
2. 事業所の垣根を越えた相談員同士の関係づくり  
グループ協議を行う事で相談員同士の連携を強化し、相談支援について気軽に相談しあえる関係を構築する。
3. ワーキンググループ活動  
令和元年度に作成した「相談支援ガイドブック」について、報酬改定に関する内容の追加や協働先の見直し等、年間を通じて改訂に取り組む。
4. 他機関との協働  
他分野・他機関との連携を図り、相談支援に必要な知識を深め、相談員のスキルアップを目指す。

#### <結果および成果>

- ①専門部会ごとにメンバーを固定したランチグループを作成し、年間を通じて各専門部会の協議内容の周知や意見交換を行った。
- ②各グループでGSV(グループスーパービジョン)を行い、提供された事例への支援方法について助言やアイデアを出し合った。ランチミーティングでは、日々の相談支援の困りごとや悩みごとの共有を行った。
- ③相談支援ガイドブック改訂ワーキングを全4回開催した。モニタリング記載時のポイントや、令和3年度の報酬改定内容、令和4年度以降の相談支援体制の変更点等について見直し、年間を通じて改訂に向けて準備を行った。
- ④令和3年8月に就労支援部会と合同でワークショップを開催し、相談支援事業所と就労支援事業所が協働していくための互いの役割について協議した。令和4年1月には福井市教育委員会主催の特別支援教育地区別協議会に連絡会として参加し、関係機関との連携のあり方について特別教育に関わる教員らと意見交換を行った。